

都道府県別賞一等

祖父からの課題

大分県 竹田市立緑ヶ丘中学校 三学年

山村 隆文

「生命保険って何。なぜ、必要なの。」この言葉を約二年前、今は亡き祖父に聞いたことがある。

祖父は、僕の家から少し離れたところに住んでおり、頻繁に会いに行けるわけではなかった。だが、会いに行った時には、たくさんの願いを叶えてくれたり、色々なことを教えてくれたりしたため、とても楽しかった。約二年前のそんなある日、祖父の家に遊びに行きテレビを見ていると「生命保険」という言葉が聞こえてきた。興味を持った僕は、とっさに「生命保険って何。なぜ、必要なの。」と聞いた。すると、祖父から「一緒に考えてみよう」と言われた。そこでテレビを消して、祖父と椅子に座り向かい合って話した。

まず、祖父は生命保険について説明してくれた。「生命保険」とは、簡単に言えば生命保険に加入している人が、その生命保険会社に契約期間分保険料を支払い、その期間中にその人が亡くなってしまった場合に保険金が支払われることであると、僕に分かるように教えてくれた。これで、一つ目の疑問は解決した。だが、二つ目の疑問の解決は、そう簡単にはいかなかった。僕は、祖父から、身の回りに潜む危険のことを考えてみてと言われた。そこで、日頃自転車を通している僕は、その質問に「車や自転車での交通事故とか」と、気軽に答えた。すると祖父は「人生はいつ何が起こってしまうもおかしくなくて、色々な所に危険が潜んでいるから。人生を甘く見たら駄目だよ。」と言った。その口調は、とても優しいものだったが、僕の心にはとても強く、恐ろしく響いた。その後、また祖父から同じ課題を出され、毎日毎日必死になって考えた。祖父にほめられるために。会いに行き、答え合わせをする機会は何度もあった。だが、僕は永遠に、その課題の答え合わせをすることができなくなってしまった。祖父は突然亡くなってしまったのだ。

「どうせ、死んでしまうから迷惑をかけたくない。だから葬儀が一番安いので良い。」祖父が亡くなる少し前に家族に伝えた言葉だ。僕はその言葉に疑問を持った。そこで自分でその疑問を解決しようと、僕たちの暮らす社会と生命保険とを関連づけて考えてみた。危険な場所は、通勤や通学で使用する道路、そして学校や職場など、数えきれないほどあることに気づいた。例えば、ある人がその危険な場所で、命を失ってしまったとする。また、その人には家族がいて、その家族の中で唯一の収入源であり、生命保険にも加入していなかった

第61回中学生作文コンクール

らどうなってしまうのか、インターネットを活用し調べてみたところ、驚くべき結果が出てきた。まず、葬儀の費用。そして、これからの生活費や日常での支出。さらに子供がいれば、これからの教育費。僕は、これらのことから、生命保険に加入することには、良い点、つまりメリットしかないということに、祖父のおかげで気がつくことができた。

「生命保険」それは、僕たちの暮らしている日々日常、色々な危険が潜んでいるこの世界で、家族や身内に心配や迷惑、負担をかけないために、もしもの時に備えて加入するものだと、祖父の言動やインターネットの情報から感じることができた。それが、祖父の課題の答えなのだと思う。次は僕の番だ。いつ何が起きてもおかしくない。そして、危険は色々なところに潜んでいる。祖父から学んだことを生かして、家族や身内に迷惑をかけないためにも、将来僕は「生命保険」に加入する。